愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	サブカルチャー論		
担当者(Instructors)	小林 貞弘	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

サブカルチャーについて、特に日本アニメとその歴史に照準して、多角的に考える。マニアックな知識の習得を目指すものではなく、学生の思考を自由で開かれたものにすることを目指している。そのため、アニメをあくまでも学際的な対象として扱い、複数の研究領域を横断していくようなかたちで授業を展開するつもりである。アニメを通して「エンターテインメントとは何か」を理解するとともに、作品を自由に論じるための基礎知識や視点の習得を目指す。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講師が用意したレジュメ（A4二枚程度）をもとに授業を行う。学生にはレジュメの穴埋めをしてもらうことになる。アニメを扱うことから、毎回複数の映像を断片的に使用する。真面目に視聴できないと単位取得は困難なものになる。授業回によっては、テレビアニメ一話分をそのまま見せる場合もある。映像は、試験や課題に関わるものという前提で使用する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	イントロダクション：アニメを学問するとはどういうことか。	まずはアニメを学ぶ意味について考える。研究範囲や対象を明確にしたうえで、はたして「アニメは日本の文化だ」と言えるのか否かについて考える。最後に、アニソンを取り上げ、アニメに対する社会的認識の変化を追う。	□
第2回	アニメの定義：アニメとは何か。	アートアニメーション・実験アニメーション・プロパガンダアニメの代表作をいくつか視聴する。これらを比較の対象とすることで、この授業が主に取り上げる商業アニメの特性について確認する。	□
第3回	日本アニメ史を概観する。	表現の洗練や技術の進化、エポックメーキング的な作品を確認しながら、日本アニメ史のアウトラインを提示する。いわゆる「世代論」や「若者論」を交えながら、長寿アニメが世紀や世代を超えて愛されている要因に迫りたい。	□
第4回	手塚治虫の功罪：宮崎駿の手塚批判から考える。	ストーリーマンガの創始者・手塚治虫が日本アニメにもたらした功罪について、宮崎駿による批判を足掛かりにして論じる。手塚が先駆けた制作体制のあり方や表現の工夫を取り上げる。最後に「鉄腕アトム」第一話、または、「海のトリトン」最終話を視聴する予定である。	□
第5回	東映動画からスタジオジブリへ	戦後日本アニメを支えた多くの才能を輩出した東映動画を取り上げる。この会社で腕を磨いた重要人物として大塚康生・高畑勲・宮崎駿等を挙げることができる。東映動画の成したものがいかにスタジオジブリへ引き継がれたかについて論じる。	□
第6回	テレビアニメの全盛期：1970年代	日本アニメの特徴としてしばしば言及される「ジャンルの多様性」について、特にスポ根もの・ロボットものを例にして考える。第5回目からの続きで、その当時はアニメブームの主流からは外れていた宮崎駿の1970年代の仕事について言及する。	□
第7回	「ルパン三世 カリオストロの城」をめぐって	宮崎駿が初めて監督した劇場公開作品「カリオストロの城」を例に、古典的なドラマトゥルギーである「スリー・アクト」の概念を紹介する。この作品が名作として色褪せない理由をドラマの構造に着眼して解説する。	□
第8回	劇場公開作品は元気だった：1980年代	角川映画がメディアミックスを展開し、ビデオデッキやビデオテープが普及しはじめ、アイドル人気が全盛期を迎えた1980年代の時代状況が、アニメ史にどのように反映されていたかを検証する。キーワードは「少女」である。	□

第9回	二人の巨匠：高畑勲と宮崎駿	高畑勲が「30点」と評価した「風の谷のナウシカ」の課題は、その後の「もののけ姫」に継承されることになった。この課題に対して、宮崎駿がどのような回答を出したのか、宮崎自身が傾倒した照葉樹林文化論や虚無主義に照らし合わせて検証する。	□
第10回	「新世紀エヴァンゲリオン」の衝撃	「新世紀エヴァンゲリオン」は、「風の谷のナウシカ」で巨神兵の場面を担当した庵野秀明が監督した、社会現象にもなった作品である。くしくも放映されたのは1995年のことであった。「失われた10年」をキーワードにして論じるとともに、波紋をよんだ第25・26話について考える。	□
第11回	セカイ系とは何だったのか。	新海誠監督の短編アニメ「ほしのこえ」を視聴する。セカイ系の定義、その後の展開をふまえて、21世紀になって突出してきた「自閉症」という現象について考える。	□
第12回	平成アニメのいろいろ（1989-2018）	学生にとって自我の形成期にあたる平成時代中期から後期までを主に照準する。この回は、批評する際に安易に用いられる「オリジナリティ」「世界観」という用語について考える機会にしたい。可能であれば、学生がレポートの発表を行う機会に当てることも検討している。	□
第13回	誰もが一度は通る道：幼児向けアニメの世界	特に「異形のキャラクター」を取り上げる。キャラクターが子供に愛される要因について、図像・内面・意味を手掛かりにして考える。高畑勲監督による「パンダコパンダ」を視聴する予定。愛される要因がいかにトトロに継承されたかについて論じる。	□
第14回	アニメは子どもたちのために：宮崎駿のアニメ観	子どもが大人になる過程で試練として迎えるイニシエーション（通過儀礼）をテーマにした作品として、「魔女の宅急便」その他のジブリアニメを取り上げる。また、「ハウルの動く城」を通してモラトリアム（保留期間）からの脱出についても取り上げる。	□
第15回	アニメの問題圏：日本アニメの今とこれから	たくさんのキーワードをもとに、日本アニメの現在と未来について整理する。この回のキーワードは「グローバル化」「多チャンネル化」「地域振興」「政策委員会方式」「世界観」などである。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

①参考図書を2冊以上読むことを課す。１冊５時間程度として２冊で10時間程度、じっくり丁寧に読んでほしい。試験の記述問題対策にもなる。 ②毎回の授業には「せめてこれだけはインプットしてほしい」ことがある。TEAMSのクイズにチャレンジすることで定着を図ること。合わせてレジュメを読み直すなどしておくとよい（毎回30分程度）。 ③断片的にしか見せられなかった作品のうち、何か心に響くものがあれば、全体を通して視聴しておくことが望ましい。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポートは、添削・採点の上で返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	①自身の人生観や人間観に影響を与えたアニメについて語ることができる。 ②様々な世代の人と関係を結ぶ上で、アニメを有効な話題の一つにすることができる。 ③頭括型の意見文で短いものなら、論理的に整然とした文章を的確に書くことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
80%				20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

レポートの機会を複数用意している。1回10点満点、最大2回まで提出することができる。コメントを添えて得点化したうえで返却する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	

2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	鈴木敏夫　「天才の思考　高畑勲と宮崎駿」　文春新書	978-4166612161
2	津堅信之　「新版　アニメーション学入門」　平凡社新書	978-4582858365
3	津堅信之　「日本アニメ史　手塚治虫、宮崎駿、庵野秀明、新海誠らの100年」　中公新書	978-4121026941
4	氷川竜介　「日本アニメの革新　歴史の転換点となった変化の構造分析」　角川新書	978-4040822044
5	数土直志　「日本のアニメ監督はいかにして世界へ打って出たのか？」　星海社新書	978-4065303078